

# 平成19年度 伊賀市人権作品 市長賞

市では、市民の皆さんの人権問題に対する関心を深め、人権意識の高揚を図ることを目的として人権作品（作文、ポスター、標語）を募集し、総応募点数16、421点の中から、市長賞、優秀賞、入選作品が選ばれました。

11月16日には、平成19年度人権作品市長賞、優秀賞授賞式が市役所北庁舎1階の第11会議室で行われました。  
ここでは、市長賞を受賞された皆さんの作品を紹介します。

## 作文部門

### 識字と木学

柘植小学校6年

松村 涼也さん

「私は小学校2年の1学期まで行っただけです。……私から文字をうばったのは先生です。しらすぎ識字学級生」という文が書かれたTシャツが、いがまち人権センターのホールにかざってあります。ぼくは、木学（地区学習会）やセンターで遊んでいる時など、時々そのTシャツを目にしていました。でも、こんなことあってんなあと思うくらいでした。4年の終わり頃、5年生の子に、  
「このTシャツおこまのおばちゃんが書いてんで。」

と教えてもらいました。おこまのおばちゃんは、もう亡くなってしまったけど、ぼくの曾祖父の妹で、ぼくの大好きだったげんこつあめを、手おし車でよく買ってきてくれたやさしくてぼくの大好きな人。ぼくは、おこまのおばちゃんが識字に行っていたことも知らなかったのとでもおどろきました。それから、そのTシャツが少し気になりはじめました。

6年生になり、識字の勉強をしました。そこで、字を学びたい気持ちはあるけど、人の目が気になり、今までのつらい経験から、識字に行きにくかった人もいたことも知りました。その時、「おこまのおばちゃんは、どんな様子で識字に行ってたんやろ。」と心配になりました。そこで、祖母におこまのおばちゃんのことを聞いてみました。祖母は、おこまのおばちゃんが、文字を教えてもらえるから楽

しそうに行っていたこと、「かぞ行くで。」とうれしそうに兄の孫をつれて行っていたこと、自分で書いた年賀状を祖母に送ってくれたことなどを話してくれました。ぼくは、楽しそうに識字に行っていたことがわかってほっとしました。そして、年賀状をもらっていたことを、もう少し詳しくきくと、  
「みつちゃん。わしもひらがなしか書けへんけど今年は年賀状出すさけな。」  
と言って年賀状が届いた話をしてくれました。「あけましておめでどうぞございます」と大きな字で、少しゆがみながらえんぴつで書いてある年賀状を見て祖母は涙が出たそうです。ぼくは、いつも祖母とおこまのおばちゃんは会っていないのにそれでもおこまのおばちゃんは年賀状を出したのだから、字が書けるようになって本当にうれしい、その字を見てほしい人が祖母でありおこまのおばちゃんを囲む人だったんだろうなと思いました。そんなおこまのおばちゃんの気持ちに祖母にも伝わったから、祖母は今でもその年賀状がはつきりと思いつけるほど胸にやきついている

んだと思います。話を聞いていて、おこまのおばちゃんや祖母の気持ちがぼくにも少し伝わってきました。また、祖母は、  
「まだ部落差別でくやしき思いをすることがある。でも前川の人はあつたかい。何かあつたら必ず『どーや』って声をかけてくれる。おじいちゃんとかケンカしたら『あんた出てって。私は嫁やけど、前川がええからここにいるさかいって言うからな』って笑てんのやわ。」  
と話を続けました。  
ぼくも祖母といっしょで前川が好きです。4年の時、木学で前川に下水道がつくられていったことを勉強していききました。昔は共同トイレだったので、とくに小さい子やお年よりが冬とか大雨の日に不便なことだから、みんなが暮らしやすいかと思つたのが始まりだそうです。何年もかけて運動を続けてやっとできることになった下水道が、山出・上村にもできるとになり、野村・中柘植：そして、いがまち中に広がっていったそうです。困っている人のために始めたことだけど、みんなのためになることだから、その輪をどんどん広げていこうとした前川の人のちに、ぼくはあこがれるし、そんな人たちがたくさんいる前川が好きです。この前川のなかまとぼくは、木学をしていきます。今はこのなかまと、どうやったら部落差別をなくしていけるのか考えたり、センターで木学キャンプをしたりしています。ぼくは、「自分の思いを伝える」ことが自分の課題だけど、木学の中では少し伝えることができているかなと思います。まだ、自分の中でもはつきりしていないけど、大好きな前川でいっしょに泣いたり笑ったりしてきたなから安心していいのだと思つた。おこまのおばちゃんが祖母にせいっぱいの字で年賀状を出して、字を書ける喜びを伝えたかったのと、少しにている気がします。ぼくが差別をなくしていく輪を広げようとし、自分の思いを伝えられるなかまをつくってきている木学と、おこまのおばちゃんが差別によつてうばわれた字をとりもどすために通っていた識字は、同じだと思つています。

おばちゃんや字を学びながら識字のなかまをつくりその学んだ字で祖母を感動させたように、ばくも木学で勉強したことを学年のみんなにもって発信し、なかまの輪を広げていきたいです。

## つどいと実行委員

桃青中学校3年

中森 久美子さん

私は、1年生の時からずっとヒューマンライツに参加しています。話し合いをする、1日1日がとても意味のあるものになります。でも、今まで参加してきた中で、自分が特に大きく変わったと思った出来事が二つあります。それは、「部落問題を考える中学生のつどい」に参加したこと、伊賀市の実行委員になったことです。

つどいは2年生の時に参加しました。小学生の時にも参加したことがあるけれど、中学生のつどいは初めてで、少し雰囲気が違うような気がしました。差別に対する自分の思いをたくさんの人に聞いてもらいたい。いろんな人の思いを聞きたい。そして、一緒

に差別をなくしていける仲間を作りた。私はそんな気持ちでした。でも、話し合いの直前までとても緊張していました。

うまく話し合いができるか不安だったけれど、始まってみると緊張がほぐれてきて、結構たくさん自分の考えを伝えることができました。私がいいた分散会では、まず「友達」と「仲間」について考えました。「友達」「仲間」——意味が違うのではないかという意見が多かったです。私もそう思っていました。「友達のほうが○○」「仲間のほうが○○」両方の意見がある中で、私の心が動いた言葉がありました。それは、「友達」「仲間」という言葉にとらわれてはいけない、「友達」でも「仲間」でも、本当につながりが深かったらいいという内容でした。確かにそうかもしれないと私は思いました。大切なのは、本当に信頼できて何でも相談し合える人がいるかどうか。私はつどいで新しく学びました。

もう一つ、つどいに参加してとても心に残ったことがあります。話し合いの後半ぐらいで、ある人が、自分は部

落出身だと話してくれました。それに続いて何人かの人も話してくれました。泣きながらの人もいました。私は驚きました。初対面の人ばかりで、話すことに少し不安な気持ちもあったと思います。だから、こんなに短時間で自分たちを信じてもらえてすごいと思いました。小さいころに受けた差別の経験や、自分の住んでいる地区が好きだという思い、部落差別への怒りが心に響きました。その声がとても刺激になりました。自分が部落出身だと話してくれた人たちはこれを話すためにどんなに参加して、話すことによつて差別の残る社会が変わるきっかけになってほしいと思つたのではないかと今思っています。

その思いに込めたい。私は3年生になって、伊賀市の実行委員になることを決めました。実行委員はつどいの司会をします。話し合いを進めるのは難しいことだと思いましたが、でも、私の気持ちは2年生でつどいに参加した時と同じです。差別に対する自分の思いをたくさんの人に聞いてもらいたい。いろんな人の思いを聞きたい。そして、一緒

に差別をなくしていける仲間を作りた。そこに、進めていく立場から、聞かせてほしい、聞いてほしい、仲間になつてほしいという思いも増えました。

月1回ぐらいのペースで、各中学校の実行委員が集まって実行委員会をしています。1回目、私はかたまつてしまつてあまりしゃべれませんでした。でも、2回目は仲良くなれた人もいて、たくさん意見が言えるようになりました。今は、今年のつどいのテーマを考えている途中です。前の実行委員会で、どんなつどいをつどいにか、思いがたくさん出ました。

私の中では、「自分のことを語れるつどいにしたい」です。「語る」ことは、自分の経験などを通して差別をなくすことにつながると思いますが、無理に「しゃべれ」ではなく、「1回しゃべつてみようかな」と思えるつどいにしたいです。

他にもたくさん意見がありました。1人ではできないから、みんなで仲間になれるよくなつどいにしたい。参加してから、その思いを持ち帰って広められるよくなつどいに

したい。あらゆる差別について考えたい、など。それをテーマにまとめて、そのよくなつどいにするためにはどうすればよいか考えることが、これからの課題です。

できるだけ多くの人に参加してもらつて、私が2年生の時に新しく学んだり経験したりしたように、多くのことを学んで経験して、差別をなくすにはどうしたらよいか、みんな考えてほしいです。どうしたら差別がなくなるのか、それは難しい問題です。でも、私の中で一つ言えるのは、つどいのようにみんなが話し合うことで差別への怒りを感じ、仲間も増え、差別をなくすために一歩踏みだせるということです。差別問題は周りの人たちのためだけに考えるのではなく、自分のためにも考えなければいけません。今回のつどいは自分たちが進めていきま

す。話し合いの中で多くの思いを集めて、それをみんな広げていきたいです。



◀市長賞を受賞された皆さん

平成19年度 伊賀市人権作品 市長賞

標語部門

「遊ぼうよ」その一言があつたかい

榎田小学校5年 松本 まつもと 健照さん たけてる

「やめようよ」その一言が

いじめをなくす 第一歩

府中中学校3年 谷本 たかもと 優さん ゆう

ポスタ部門



壬生野小学校3年

山岡 さほ 沙帆さん

【私の願い】  
みんなが友だちになってほしいです。わたしは、たくさんの友だちと遊ぶのが、大好きです。



霊峰中学校3年

兒玉 由香さん こだま ゆか

【私の願い】  
人は一人ひとり個性があつて、それを認め合うことで差別はなくなるはず。みんな自分の色を持っています。その色なら誰にも負けることなく自分らしく輝けると思います。

平和メッセージソング

歌詞を募集します

市では、市民の皆さんと、アーティスト、メディア、行政がともに平和を考える事業として「平和メッセージソング」を制作するにあたり、市民の皆さんから歌詞を募集します。

あなたの平和への思いを、アーティストとともにメッセージソングにしてみませんか？

【募集期間】

平成19年12月1日(土)～平成20年1月11日(金)

【応募資格】

三重県に在住、在勤または、レディオキューブFM三重リスナーの方

【応募方法】

作品のタイトル・住所・名前・電話番号を明記のうえ、封書・FAX・Eメール・ご持参のいずれかで応募してください。

〒518-8501 伊賀市上野丸之内116番地

伊賀市人権政策部人権政策課

☎22-9631 FAX22-9649

✉jinken@city.iga.lg.jp

※持参の場合は月曜日から金曜日(祝日・年末年始を除く)の午前9時～午後5時に受け付けます。

- 歌詞は、3番以内としますが、文字数や段数などの制限はありません。メッセージ的なものでも構いません。あなたの平和への気持ちを文字で表現した形で応募してください。
- 歌詞に「伊賀(いが、iga)」に関する内容を必ず含んでください。
- 漢字や英語には必ずフリガナをつけてください。

- 歌詞とは別に、作品を作った背景、作品への思いを書いてください。
- お一人で複数の作品を応募できます。
- 作品は自作未発表のもので、他者の知的所有権、知的財産権を侵害しないものに限ります。
- 個人情報、本件に関する以外には使用しません。

【賞】

最優秀作品 1点

広瀬隆直筆歌詞カード、伊賀焼

優秀作品 2点

広瀬隆サイン入り色紙、伊賀焼

【選考方法】

応募された作品は、「広瀬隆のスパラジ!」のパーソナリティ(めるへん堂代表)の広瀬隆さんが選考します。最優秀作品には、広瀬隆さんが作曲を行い、今後の伊賀市の平和メッセージソングとしてCD化し、さまざまな場面で活用します。また、めるへん堂のコンサートなどで歌われることもあります。

【発表】

平成20年7月に開催予定の「ひゅーまんフェスタ2008～ひと・あい・へいわ～」の会場で行う、レディオキューブFM三重公開生放送番組の中で発表します。(入賞者には事前に連絡します)

【その他】

- 応募作品は返却しません。
- 作品の著作権、その他一切の権利は伊賀市に帰属します。
- 作詞は、作曲にあたり補作を行う場合があります。
- 募集にあたって市からの資料などの提供は行いません。
- 採用作品には、作者名またはペンネームを明記します。(選考後確認させていただきます)

\*この内容は、レディオキューブFM三重(津78.9MHz、名張85.5MHz)でも随時放送します。



# 警告!

## 高齢者が亡くなる 交通事故が増加しています

伊賀市では、今年になって交通事故による死亡者が急増しています。11月11日現在で11人の方が亡くなりました。昨年の死亡者が4人ですので、異常な事態といえるでしょう。

11月に入り、歩行中の高齢者が亡くなる事故が2件立て続けに起こっています。いずれの事故も、夜間に道路を横断歩道以外の場所で横断中に起こったものです。

高齢者の方が交通事故に遭わないための注意点は次のとおりです。

高齢者の方だけでなくみんなで交通事故防止を心がけましょう。



### 【道路を横断するとき】

- 遠回りになっても、信号機や横断歩道を渡りましょう
- 渡る前、横断中も左右を確認し渡りましょう
- 駐車している車両の直前・直後の横断や道路の斜め横断はやめましょう

### 【夕方、夜間、明け方の外出】

- 車の運転者から発見されやすいように、明るい色（白・黄色など）の服を着用して、外出しましょう。

夜光反射材のタスキなどを着用すると、なお効果的です

### 【自転車に乗るとき】

- 高齢になると、平衡感覚が衰え自転車の乗り方が不安定になってしまいます。また、危険の発見が遅れがちになり、とっさの行動をとることが困難になります。無理をせず、余裕のある運転を心がけましょう
- 広い道路に出るときや、進路変更をするときは必ず周囲の安全確認をしましょう

## 凍結・破裂事故を防ぐために

# 水道管の冬支度

これから本格的な寒い時期になります。この時期は水道管の凍結や破裂事故などが予想されます。特に、寒波が訪れると、各所でこれらの事故が続発し、十分な給水ができないこともあります。

こうした水道管の凍結や破裂事故を防ぐため、次のことを参考に水道管にも冬支度をしましょう。

## 水道管の凍結防止方法

### ■防寒材の取り付け方

「むき出し」になっている水道管や蛇口に、保温材・古い毛布・布きれなどを巻き付け、その上からビニールテープなどを巻いて凍結を防止してください。



### ＝凍って水が出ないとき＝

凍ったと思われる水道管の露出した部分に、タオルなどをかぶせ、その上からゆっくりとぬるま湯をかけましょう。急に熱湯をかけると、水道管や蛇口が破裂することがありますから注意しましょう。

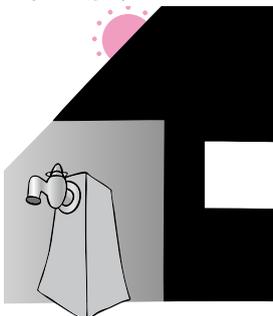
### ＝破裂したとき＝

まず、量水器（メーター）のそばにある止水栓をとめてください。止水栓がわからなかったり、止められないときは、破裂した部分に布やテープなどを巻きつけて応急措置をし、市の指定給水装置工事業者へ修理を依頼してください。

## 【水道管は寒さが苦手。冬は凍結防止対策をお願いします】

気温が-4℃以下になると、水道管が凍り、破裂することがあります。屋外で次のような場所は水道管が凍りやすいので、早めに凍結防止の準備をお願いします。

- 「むき出し」になっている水道管
- 家の北側などで、日の当たらない場所の水道管
- 風当たりの強い場所の水道管



## 水道部からのお願い

水道の開栓・閉栓は、土・日曜日、祝日と年末年始（12月29日～1月3日）は取り扱っていませんのでご注意ください。

### 【問い合わせ】

検針・開閉栓・料金等は	業務課	☎ 24-0001
漏水・給水工事等は	施設課	☎ 24-0002
簡易水道区域の給水等は	施設課	☎ 24-3969